

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570313627		
法人名	有限会社わかば会		
事業所名	グループホーム きらら浅舞		
所在地	秋田県横手市平鹿町浅舞字道川南77-7		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地域にあり、市街地も近くて便利さも良く、昼夜ともに騒音もなく落ち着いて暮らせる周辺環境にある。また、建物内も広い共有スペースを確保し、館内を一望できるホールは入居者様自身も活動しやすく、職員の介助もしやすいレイアウトになっている。ホールの壁には月の行事の飾り付けや直近の行事の写真などを飾っており、入居者様が季節を感じ、思い出を振り返って頂けるよう努めている。また、ホールには時間ごとにヒーリング音楽や入居者様のリクエストに応じた演歌や歌謡曲を流し、音楽を楽しみつつも疲れずにリラックスできる空間作りを心がけている。職員はきらら浅舞理念を念頭におき、入居者様一人ひとりのこれまでの生活歴を尊重し大切にしながら穏やかな生活を送っていただけるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年1月26日		

施設では、家庭的な雰囲気づくりに力を入れており、また事業所の理念に基づき、利用者それぞれの“自分らしさ”を大切に、本人の意思を尊重した支援に取り組んでいる。
 管理者を始め支援に当たる職員は、チームワークを重視し、互いに意見を言いやすい環境となっており、また利用者を含め施設全体が和気あいあいと良好な関係を築いている。
 例年にない降雪量と新型コロナウイルスにより、面会や外出が思うようにできていない状況ではあるが、季節に合わせた毎月の行事や、買い物、ドライブといった外出支援も積極的に実施しており、単調な生活とならないよう職員が一丸となって取り組んでいる様子が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時に共通認識を図るため、管理者が理念の説明を行っている。また、理念をホーム内に掲示し理念に沿った支援ができるよう努めている。	ホームとしての基本理念を掲げているが、ホームの現状に合わせたものに変更する必要性を感じている。今年度は事業所に合った理念を検討することとし、職員に意見を募集し、新しい理念の作成に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の散髪やパーマ等で近くの理容店の方が来て下さる。また、食事はホーム手作りであるが食材の調達は近くのスーパーを利用している。季節によって近所の方が野菜の差し入れをして下さったりする。	コロナ禍や周辺地域の人口減等により、以前ほど活発な地域交流は困難であるが、町内のお祭りでは、山車がホームの前まで来て披露してくれている。また、近くのスーパーや野菜直売所での買い物を通して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や避難訓練等を通じて、認知症の方をどのように支援すればいいか理解してもらったり、地域から孤立しないで地域の方々とは多く触れ合う機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度より地域包括支援センターの方が定期的に参加して下さり、より活発な意見交換ができています。ホームの日々の生活や状況、取り組みの詳しい内容を報告し、意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	会議は駐在所、薬局、民生委員、地域包括支援センター、ご家族が参加メンバーとなり実施している。今年度は新型コロナウイルスの影響のため、書面により実施しホームの活動内容等を報告している。	活動の報告については、委員のメンバー全員に行うとともに、運営に対する意見を広く求めることで、より効果的な会議となるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の福祉課担当の方や地域包括支援センターの方に来て頂いている。その際に相談、助言を受けるなど、関係を築いている。	運営推進会議を通じ助言をしてもらうとともに、必要に応じて随時相談できる体制となっている。また新型コロナウイルスの流行を受け、マスク・消毒液など消耗品について提供して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会やホーム単独の研修を行い、身体拘束廃止のケアに取り組んでいる。	年間の行事予定及び研修計画の中に身体拘束廃止委員会と虐待防止研修を位置付け、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、定期的に委員会を開催して勉強している。また、朝礼で虐待等のニュースがあった場合は話題に取り上げ、注意喚起とともに防止の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について管理者が研修で学んだことを職員に伝え知識の拡大を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族が不安だったり、要望があれば事前に施設見学をしていただき疑問に思うことなど、十分納得のいくまで説明し情報提供している。理解や納得した上で契約に臨んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られた際は、施設に対しての要望・意見など気兼ねなく話して頂いており運営に反映させている。入居者にも気軽に職員に話してもらえよう努めている。	3ヶ月毎のケアプランの更新に合わせ、家族から文書で意見をもらっており、ケアプラン以外の内容についても、様々な意見をいただくことがある。また利用者からは、個別にじっくりと話す機会を設けるなどして、本音を言いやすい場面設定を心掛けている。出された意見は、連絡ノートを使用し、必要に応じ職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの時間を利用し、意見や提案事項をあげてもらい運営に反映させている。	職員同士普段から意見を言いやすい関係が築かれている。また、会議では管理者が意識的に参加者の発言を促すよう配慮しながら、意見を表出しやすい環境づくりがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力・実績・勤務態度に応じて、昇給や資格手当・賞与などがある。代表者は職員に対し、同業他社より誇りの持てる職場にしたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自ら受講したい研修には参加できるよう支援している。また、職員に技術に応じ事業所より受講を勧めることもある。事業所内では系列施設間の職場で研修を行うこともあり、自施設のケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム情報交換会や南部の情報交換会の研修に積極的に参加している。お互いの問題点などを話し合いサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に必要な支援は何かを入居前に本人や家族・介護支援専門員から情報収集に努めている。不安を解消するため利用者が環境・職員・他利用者とゆっくりと時間をかけて傾聴し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や見学時などに要望や心配事などないか入居前から情報収集し入居時の対応に備えておく。入居後には不定的ではあるが家族に利用者の様子を連絡したり、月初めには通信を発行し郵送している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊厳をもった態度で接する様に心がけている。家事援助を手伝って頂いたり、お互いに暮らしを支えあっていく思いを大切にし、馴染みの関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月通信を発行し本人の様子を伝え、面会時にも家族と情報交換をし、共に本人を支え合っていくよう、協力関係を大切にしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブ等で支援したり、面会者には気兼ねなくお話しできるように利用者の居室に案内しゆっくり過ごして頂くようにしている。また利用者の希望により直接家族との電話をつなげている。	ドライブの際、利用者の自宅前を通過して確認してもらったり、友人の施設への訪問があったりと、利用者それぞれ馴染みの関係継続に努めている。また最近では通信環境を整え、オンラインでの面会を始めたところ、家族より好評であったとのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ居室にこもらないようにホールに誘導するようにしている。利用者同士の会話は職員が調整役となり笑い合えるコミュニケーションができるように見守っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当グループホームを退居し、他施設入居や入院になった場合等、本人や家族に対して納得のいくまで相談に乗り、その方にとって一番いい方法とは何かを一緒に相談し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表現しづらい方についても、表情やその方なりの訴えなど色々な面から得られる事を手がかりに意向の把握に努め、職員間で共有している。	居室でゆっくり話を聞くことを心がけている。ちょっとした言葉にどういう意味があるのかを考えながら、個別の会話・面談の時間を大切に、利用者の気持ちに寄り添いながら、思いを把握できるよう努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・関係者・介護支援専門員から情報収集し、基本情報を作成して職員で共有している。また、日々の何気ない会話の中から情報を得るなどして職員間で共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し本人の希望に沿うように極力聞き入れ体調管理にも努めている。出来ることを見出し自信に繋げていくよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や毎日の生活に関わっている職員からの意見を聞いて介護計画を作成している。利用者の生活の質の向上のために職員はミーティング等を利用し意見を出し合っている。検討結果はカンファレンスシートに記録している。	介護計画は、関係機関からのアセスメント情報を基にカンファレンスを行い、本人・家族の意向と支援者の意見を合わせて検討し、作成されている。また、検討の内容についてはカンファレンスシートに記録し共有されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には身体状況や生活状況・バイタル・気づきなど記録している。ミーティングを利用してその日のバイタルの確認や様子を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブの際に買い物をしたり、外出イベントの際には外食をしたり、他の観光客とのふれあいがあったり、利用者が生活に楽しみを持てるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を受診している方や、家族や本人が希望する病院を継続して受診している方もいる。定期受診に限らず本人の状態に応じて主治医の他医療従事者の指示を仰いでいる。	本人の希望するかかりつけ医の受診を基本とし、職員が付添支援を行っている。薬については、かかりつけ薬局より届けてもらいながら、服薬方法についてアドバイスを受けるなどして協力頂いている。かかりつけ歯科医は訪問歯科を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護職員がいないため相談はできないが、利用者の症状や状態に応じて医療機関と情報を提供し合いながら連携を図っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には家族や利用者の不安を軽減できるよう頻りに訪問したり、担当の医師や看護師・ソーシャルワーカーと情報交換しながら早期退院に向け治療報告を密に行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームで出来ること、出来ないことを説明した上で、利用者の家族や関係者と協議している。他職種の協力を得ながら、本人、家族が納得できる最善の方法で支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応方法については、入居契約時に本人・家族に対して重度化した際の方針を説明している。長期入院等医療的ケアが必要になった場合は、都度家族と協議しながら支援内容を検討している。	重度化した際の対応については、職員で検討し共有化を図るとともに、施設としての方針を明文化することで、利用者・家族へのサービス向上となる事を期待します。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤帯に一人で初期対応や応急手当・救急車の要請などを行うことに不安があるため、救命救急講習で学んだことを改めて勉強し実践訓練を定期的に行う。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会い下消防避難訓練を年2回行っている。夜間想定と日中想定を交互に行い訓練後には職員同士で再確認意識を高めている。災害時には地域住民や消防団に協力を依頼している。	消防署立ち合いによる避難訓練を年2回実施している。また、消防団は道路をはさんだ場所で活動しており、施設の防災体制についても、都度アドバイスをもらいながら整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に対するプライバシーの話題は他の入居者の前で話さないようにしている。また、トイレや汚れ物の処理は日頃の仕草からの気づきで羞恥心に配慮したケアを行うよう努めている。	プライバシーについての研修を年間の研修計画に定め、職員の意識向上に努めている。職員は、利用者の立場に立って考え、声掛けの仕方などに配慮するとともに、互いにアドバイスしながらプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の入居者の方に合わせた声かけ対応を行い、スタッフが全て決めてしまわないよう自己決定の場面を作り意識しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の希望に沿って過ごしてもらうよう、臨機応変な対応を心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの柄や色、季節に合った服装が選べるよう見守りや声かけし支援している。希望によって理容店に出張して頂き、散髪や髪を染めたりできるよう調整している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事では、テーブルを拭いたり、ランチョンマットを敷いてもらったり、役割分担しながら出来ることを行ってもらっている。行事では事前に利用者の嗜好を聴き、参考に献立を考えている。	買い物、準備、調理に至るまで、可能な限り利用者が参加している。特に毎月計画されている季節の行事では、行事食として食べたいものを利用者自身に挙げてもらい、一緒に調理するなど、食事を楽しむ支援が行われている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせて器、はし、スプーン、盛り付けを工夫し食べやすい形で食事提供している。摂取状況の悪い場合は、状況に応じ栄養補助食品を併用している。食事量と水分摂取量は介護記録に記録し状況把握に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。一人では磨けない方や義歯の方など、有する能力を活用しながら口腔ケアを支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄サインや排泄パターンを理解し、声かけや誘導をトイレで排泄ができるよう支援している。	日誌や個別の排泄チェック表を活用しながら、利用者の排泄パターンを確認し、可能な限りトイレで排泄できるよう取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方は医師と連携し便秘薬を処方して頂いている。排便状況を記録しており、排便状況を見て便秘薬を調整している。適切な水分補給と日々の体操による運動で便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日いつでも入浴ができる状態になっている。午前中の一番風呂を希望されたり、午後からゆっくり入りたいなど希望に応じた対応をしている。入浴時にはバイタルチェックを行い健康状態を確認し入浴している。	利用者の入浴頻度は週に2～3回となっている。毎日入浴できるよう準備を行い、利用者には都度意向を確認したうえで入浴してもらっている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを崩さないよう、休息しているときには無理に他の利用者に合わせることがないように支援している。入眠前には穏やかな気持ちで安眠できるよう見守りし支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに処方薬内容や働き・注意点など添付し、また、受診結果・薬の変更など記入しミーティングを利用し職員同士で共有している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物たたみなど場面によってお手伝いの声掛けをし、対応頂いた後には感謝の言葉をかけ、喜びあるよう支援している。また、個々の嗜好に合わせて塗り絵や計算ドリルや脳トレなどを行う時間を設けている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症の流行期間を警戒しつつ、天気の良い日はドライブを積極的に取り入れ、気分転換を図っている。家族の協力で外出する利用者もいる。	感染症に配慮しつつ、近隣スーパーへの買い物やドライブ等、外出支援に積極的に取り組んでいる。また、職員のちょっとした外出の際にも、利用者を誘ってついでにドライブ外出とするなど、柔軟に外出支援を取り入れている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かり管理しているが本人の希望があれば家族の了承を得て、所持できるよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や敬老の日などにお花やプレゼントが届いた時には、本人にお礼や生活の様子などの報告をしている。また、電話をしたい希望がある時は応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りや、玄関やホール内の植物に季節を感じられるよう配慮している。芳香剤スティックをホールにおき、食事前後はヒーリング音楽を流し、落ち着いた居心地よい空間作りをしている。	温度、湿度の管理と共に、向かい合うスペースにはパーテーションを設置し、またポスターにより注意喚起を促す等、徹底した感染症対策が取られている。中央の共用スペースは日中活動や利用者同士くつろげる場となっており、利用者も普段は皆共用スペースのソファでゆったり過ごしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを多く配置し、それぞれが座りたい場所で気合う方同士で会話を楽しんだり、一人でゆっくり過ごしたい方は居室にあるソファを利用されている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の意見を取り入れながら、本人の大切な物や写真・趣味で作った物など配置し、居心地よく過ごせるよう心掛けている。	居室内は利用者の作品や職員の作成したクリスマスカード等で装飾されている。また、自宅より思い思いの家具等を持ち込むことができるため、その人らしい居室となるよう配慮されている。各居室に非常用持出袋も準備されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせ、車椅子や歩行器を使用しながらも手すりを使い歩行訓練を行うなど自立した生活が送れるよう支援している。		